令和2年度　学校評価自己評価表（最終評価）

ミッション	ビジョン	
○県北の中心校・リーディングスクールとしての誇りと自覚をもつ学校 ○保護者や地域から信頼を得る学校	学校教育目標　「夢を持ち　志を立て　やるべきことをやりきる生徒の育成」 ⑴ 生徒の自信と意欲を高め，学力を向上させる。 ⑵ 落ち着いて学習や生活ができる学校環境をつくる。 ⑶ 基本的な生活習慣を確立する。	

三次市立十日市中学校

評価計画											自己評価	学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	担当	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
自信と意欲	生徒の自信と意欲を高め，学力を向上させる	教務 生徒会 総務	自己有用感の高い生徒の育成 【自己有用感】	・総合的な学習の時間を中心に地域貢献・異学年交流を実施する。 ・１人１役（係・委員）の仕事を，意欲をもって実行できるように生徒相互による評価をする。 ・地域との連携をしたボランティア活動を推進する。	・「自分なりに努力したことがうまくいって，うれしかったことがありますか。」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	95%	88%	87%	92.0%	B	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年87.4%，２学年85.6%，３学年87.5%であり，達成度は86.8%であった。コロナ禍のため地域ボランティア等の機会がなかったが，学年行事等の取組を通して達成感を味わい，自己有用感の高まりに繋がったと考えられる。	○			・年度初めより，コロナ禍で学校生活のスタートが遅れ，生徒相互の人間関係づくりが困難な中でも，自己有用感の達成度がほぼ昨年通りとなったことに，教育活動の創意工夫，努力を強く感じた。 ・学校行事等，繋がりをもつ工夫を考えて頂いたことが，高い数字に結びついたのだと思う。 ・コロナ対応の中で,生徒の自己有用感を高めるために創意工夫した取組がされていると思います。	コロナ禍の中ではあっても，学年行事や生徒会活動を通して生徒が活躍できる場を積極的に仕組んでいくとともに，日々の授業で成功体験を積み重ねることを大切にする。 また，日常の小さな活動の意味づけを持たせるように取り組むことで，生徒の意欲を高めたい。
		研究部	主体的な学びによる，学力の定着と向上 【主体性】	★基礎基本を徹底し，各種学力テストで全国・県平均点以上を目指すとともに，通過率４０%未満の生徒の減少に努める。 ・協同学習を積極的に取り入れた授業改善を進め，生徒の思考力，判断力，表現力を育成する。 ・生徒が計画的に取り組める学習課題の設定をする。 ・思考の跡がわかるノートづくりをさせ，よいノートは掲示するなどして，積極的に評価する。	・２学期初めの実力テストにおける平均点 ・三次市学力到達度検査における平均点	全教科全学年全国平均	1教科	５教科	50.0%	D	１学年で３教科（国・社・理），２学年で２教科（国・英）が全国平均をこえている。５教科合計を全国平均と比較すると１学年が-7.3点，２学年が+2.3点であった。	○			・１学年で３教科が全国平均を超えているにも関わらず，５教科合計で全国平均とマイナス7.3点の較差があるということは，数，英の学力向上が大きな課題と見受けられた。逆に，２学年では国，英の平均点が高く，５教科の平均を引き上げているのでしょうか。 ・中間評価の数字と比べても，かなり改善されているように思われる。授業風景もよくなったように感じたのも，その表れだと思います。 ・適切であると思いますが，ポイント差等を加味されてもよいと思います。	生徒の繋がりを深めるような意見交流を通して学習の楽しさを感じることができる，生徒が語り合いたくなるような授業の仕組みを研究部，生徒指導部，教務部が協力して広げていきたい。 また，次年度の研究授業では，生徒の語り合いを中心にした協同学習についても研修を深めていきたい。
					・２学期初めの実力テスト及び三次市学力到達度検査における３０%未満の生徒の割合	各学年各教科20%以下	16%	10%	200.0%	A	３０%未満の生徒の割合は，１学年，２学年ともに各教科平均９名であり，２学年においては，中間評価より改善している。教科により差が大きいことが課題である。	○			・昨年度の評価指標40%未満が，減少傾向にあるのは好ましい。30%未満の生徒への個別指導の充実を望む。 ・改善されていることが，数字に表れていると思われる。解るという喜びを感じ，より前進することを望みます。 ・県の指定事業を活用され，30%未満の生徒の学力向上に取り組まれた成果と思います。	
					・「夢中になった，勉強がおもしろいと思った，やる気が出た，という記憶に残っている授業がありますか」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	70%	65%	62%	88.6%	B	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年66.0%，２学年48.9%，３学年71.4%となり，達成度は62.1%であった。コロナ禍の中，お互いが係り合える授業，共に学ぶ授業の制約が大きかったことも要因にあると思われる。	○			・コロナ禍状況という制約の中で，生徒相互の協同学習の実践が困難な状況が推察される。 ・コロナ禍という制約の中で，生徒たちも戸惑いがあったと思う。心のサポートが必要なのかもしれない。 ・コロナ対応の制約がある中で，主体的な学びによる授業改善がされていると思います。	
規律と安心	落ち着いて生活できる学校環境をつくる	生徒指導部	いつでもどこでも通用する，主体的な行動・態度の徹底	・生徒会活動・学級活動の両面から，自ら進んで行う「あいさつ」「清掃」「整理整頓」の取組をしていく。	・「あなたのクラスでは，みんなが掃除当番や係の仕事を，責任をもってしていますか。」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	90%	85%	73%	81.0%	B	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年77.7%，２学年77.8%，３学年62.5%であった。達成度は81.0%と前回調査から下がっている。決まりごとを守るのは安心して学校生活を送るうえでの基本となることを意識させる必要がある。	○			・このチェック項目は，昨年度も１回目に比べて２回目は下降となっており，どのように生徒の意識の変化があるのだろうか。時に，３年生の評価割合の低下傾向があるのは，何か原因があるのだろうか。 ・小学校での生活習慣が改善できていないところが，影響を与えているのだと思います。「あいさつ」「そうじ」など小学校で継続して取り組んでいきます。	教員だけの声掛けでは限界があると考える。生徒会を利用し，生徒から掃除当番や係の仕事について考え，取り組めるような仕掛けを行っていく。
			共感的な人間関係の育成	・生徒との丁寧な対話と指導を行う。（デイリーノート，個人面談，家庭連携） ・いじめの早期発見・対応 ・カウンセラーの周知と活用（不登校の減少）	・「つらいことや，こまったことがあったとき，なんでも本音で相談できる友だちがいますか。」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	90%	87%	84%	93.0%	B	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年85.4%，２学年77.8%，３学年87.5%であった。学校行事や部活動等で力を発揮する生徒もいるが，全体的にコミュニケーションスキルが不足している生徒が増えつつあると考えられる。	○			・昨年の結果と比較してみると，現２年生は微減，現３年生は増加となっています。コミュニケーションスキルに，日常生活面での留意，指導を望みます。 ・コミュニケーションスキルは，一朝一夕に身につくものではなく，小学生，もしくはそれ以前から地域も含め，しっかり関わるようにする必要があると思う。 ・達成目標値には届いていませんが，共感的な人間関係が育成されていると思います。	学年や学級の実態に応じて，学活の時間などで学年や学級でのソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなどを取り入れた活動を行い。コミュニケーションスキルを向上させる。
			生徒会活動による絆づくりと居場所づくり	・生徒会を中心に，学級や生徒個人の存在感を高める取り組みを行う。（クラスの紹介ポスターの作成，誕生日カードの紹介 ありがとうカードの掲示等）	・「今のクラスは好きですか」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	80%	78%	82%	103.0%	A	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年73.8%，２学年76.7%，３学年82.1%であった。２学期以降，学年体育大会や文化祭等の行事を通して，学級への所属意識が高まったと考えられる。	○			・コロナ禍状況の中での規模を縮小しての体育大会や文化祭等の工夫改善を評価します。 ・７月より１月の方がさらに向上しており，帰属感や役割意識が高まっていると感じています。	来年度は，コロナ禍の中でも行える学級活動や行事を今年度の反省を生かして，学級の絆が深まる活動を工夫して行っていく。
健康	基本的な生活習慣を確立する	生徒指導部	生活リズムの確立と食育の推進	・委員会を活用した，食に関する指導を行う。	・「朝食を毎日食べていますか」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	95%	89%	89%	93.6%	B	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年88.3%，２学年84.4%，３学年92.9%であった。大多数の生徒は朝食の習慣が定着しているが，保護者が朝食を用意できない事情があれば，生徒自身でできる改善を考える機会が必要である。	○			・生活リズムとも関連すると思いますが，朝食週間の定着と，学校生活の充実度との関連を通し，保護者への啓発を，特に課題をもった家庭との連携を進めてください。 ・食事は基本ですので，PTAとも協力して100%を目指していただきたいと思います。 ・生活リズムは安定しており，さらに自分で家族の一員として食に係る仕事分担があればと思います。	朝食の大切さを保護者や生徒に考える機会を設け，取組の意義を伝えきれるように保健だよりや生徒会活動での内容を充実させていく。
				・生活三分割による生活リズムの見直しを図る。	・「毎日同じくらいの時刻にねていますか」の項目における肯定的評価の割合（i-checkアンケート）	80%	79%	83%	103.7%	A	各学年別の肯定的評価の割合は，１学年92.2%，２学年75.6%，３年生81.3%であった。コロナ禍のため今年度は夏休みが短く，生活リズムが大きく崩れなかったことも要因と考えられる。しかし，インターネットやゲームによる生活の乱れが生じている生徒について支援が必要である。	○			・SNS，ゲーム等，多様な遊びが簡単に手に入る現代社会です。判断力，誘惑に負けない強い意志をもった人間形成に尽きると思います。 ・規則正しい生活ができていると推察されます。SNSについては，小学校でも指導を行っています。	最近では，インターネットやSNS，ゲームなどを長時間にわたって利用する生徒が増えている。十日市中学校区で進めている「ストップ９」や全校集会や学活でインターネットやゲーム依存について考えさせる取組を行っていく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。